

## 第5回千倉地区学校再編検討委員会 会議録

日時 平成24年12月13日(木)  
午後7時から午後8時30分まで  
会場 千倉漁村センター2階大会議室  
出席委員 24名  
欠席 なし  
傍聴人 4名

### 1. 開会

### 2. 委員長挨拶

大変寒い季節になってきてまして、忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今回で5回目となりますが、4回目までを振り返りながら、さらに進めていきたいと考えています。いろいろな意見や代案のようなものも出ましたけれど、これを皆さんときちんと検討したうえで、一つの方向性を出したいと思いますので、御協力をお願いします。

### 3. 教育長挨拶

回を重ねて5回目ですが、10年後、20年後、全国的な傾向、当地区もそうですが、非常に子供の数が少なくなってくるということも理解して、御議論いただいているわけですが、私どもも財政的なある程度の裏付けがあるのは、これから5年後ぐらいまでかと考えていますので、その辺を踏まえながら、千倉地区として必要なものは揃えていかななくてはいけないという考えを持っておりますので、寒い中恐縮ですが、御議論いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

### 4. 報告

次第の4の報告として、前回の第4回検討委員会の内容について報告させていただきます。第4回の学校再編検討委員会を平成24年10月18日に行い、この時の出席委員は21名となっております。議題の1号として「学校再編の方向性について」協議した内容ですが、健田幼小PTAの説明会が終わり、保護者の方々の意見を集約し、その状況について報告をしていただきました。その概要は、小学校については、健田小学校に4校が一つになることは、特に問題はなかったが、幼稚園が朝夷に行くことについて、海拔等の問題があるとお話しでした。次に、千倉地区のPTA連絡協議会から新たな提案がありました。提案内容は、事務局からの提案となっていた平成26年度に3校が統合し、2年後の平成28年度に健田小学校と統合する案について、統合までの期間が短いという不安があるため、統合年度を1年延ばして平成27年度とし、また2段階での統合は難しいため、2校のまま平成37年まで行くという提案となっています。新たに2校案が出されましたが、教育委員会としましては、教育効果ということを考えると、学年1クラスの学校が2つより、学年2クラスの小学校の方が良いという考え方をお話しさせていただきました。

ここで、教育現場の校長先生方から御意見をいただいております。それぞれ統合のメリットやデメリットについて、お話しがりましたが、総体的には1クラス20人以上のクラスが望ましいという意見となっております。また、2段階での統合は避けて欲しいという御意見もありました。事務局からは、学校説明会等でも2段階での統合は避けて欲しいとの御意見が多かったことなどから、提案内容を修正し、平成26年度から七浦小と忽戸小が健田小と統合し、平成28年度に朝夷小と統合する修正案を出ささせていただいております。その他にも平成26年度から4校が統合するという御意見がありましたので、再度持ち帰りそれぞれ検討していただくこととなっております。

報告は以上となりますが、委員の皆様には前回の会議録を事前に送付させていただいておりますので、本日の会議にて御承認をいただき、市のホームページに掲載したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(質疑等なし)

## 5. 議事

事務局 議長委任「傍聴人の入場よろしいでしょうか。」

委員長 許可します。

(傍聴人入場)

それでは、本日の出席委員数は24人、全員出席です。過半数に達しておりますので、会議は成立いたします。第1号「学校再編の方向性について」を議題といたします。事務局から何か説明はありますか。

事務局 前回、報告がありました千倉地区のPTA連絡協議会と教育委員会との意見交換を2回ほど行いました。PTA連絡協議会から発言いただければと存じます。

委員長 そういうことですので、発言をお願いします。

委員 前回の会議から2回ほど、千倉町PTA連絡協議会と教育長、教育委員会の皆さんといろいろお話しさせていただきました。はっきり言って、これといった案は出ませんでした。各々の思いというものが伝わってきました。この会議の他に、各小学校で保護者会や役員内での話し合いをされています。まずは、各小学校の会長から状況を説明させてもらってもよろしいでしょうか。

委員長 それでは七浦から。

委員 七浦小としては、12月1日に役員PTAの中で話しをしました。案としては、統合は1回でやってもらいたいということと通学時のバスの料金の無料化というのが出てきました。あと、幼稚園を七浦小へ持って来られないかという意見もありました。

委員 忽戸小ですが、11月22日に保護者に今までの経緯を説明した上で、決をとったんですけど、七浦小と同じで、統合するなら1回で健田小に行きましょうという意見が出ました。でも、その中でも一部の人たちはまだ2校案を捨て

きれないというか、教育委員会からもっと説明して欲しいという意見がありました。

委員 朝夷小も11月に全保護者を対象にした保護者会を開催しました。内容は新しい案が出ましたので、その案に対する御意見と、最終的には朝夷小としてどうしていくか。結論的には、朝夷小としては、最初から変わっていないというのが全体的な意見です。朝夷小に3校と健田小で行きましょうというような意見が多かったです。しかしながら、やはり、これは流れがありますので、他の小学校の動き等々も考えまして、教育委員会からの案で26年度に朝夷小と朝夷小以外の3校、28年度に朝夷小が健田小に行くということも問い掛けました。それについては、朝夷小1校で、七浦小、忽戸小が健田小に行くのはやむを得ないだろうと。朝夷小1校と他の小学校で行くということについては了承しています。我々、朝夷小としましては、子供たちのことを考えますと、この大きな流れ、他校、または地域の方々の思い入れというの聞いて行かなくてはならないということについても、付け足していただきます。

委員長 朝夷小を一つにして、2校案を言っているんですね。

委員 最初の朝夷小の2校案を引き続き基本にしていこうということで、意見集約させていただきました。ただ、他校の意見も出ていますので、教育委員会からの修正案、26年度に3校が一緒になって、朝夷小が1校になった場合でも良いかを問いただしましたが、それでもやむを得ないと。26年度に朝夷小が一つになると駄目だということにはなかったと、そういう意味です。

委員 健田小は11月27日に本部役員会議を行いまして、本部役員と話をしました。その中で幼稚園の話が出てきまして、本部役員の方々がPTA会員の方に言われるそうですが、海拔の問題がどうしても出てきているようです。それで、教育委員会の方も忙しいとは思いますが、小学校が26年度に健田小に来るという案も含めて、海拔の不安を解消できるような資料を用意していただければ、それをもって、健田は保護者にアンケートという形で意見を取らせていただきたいと思います。

委員 各小学校の意見を聞いたわけですけど、いろんな意見が出てきて、このままでは一つにまとまっていかない。できれば、皆さんの意見を聞いて、一つの案を作りたいなと思っています。その中で、教育委員会と話をした内容で、「1校で少し話を進めてみたらどうか。」という話になりました。例えば1校にした時に、前回の話の中で、プレハブが必要になるだろうと。プレハブにどのくらいの予算がかかって、どのくらいの時間がかかるのかというところを、たぶん今日は意見をお持ちかと思いますが、幼稚園のこともそうですが、1校にするという案で教育委員会から提案をいただきたい。

委員長 それではいろいろな意見が出てきましたし、ある程度の方角みたいなものも

ちょっと出てきたかと思しますので、教育委員会の考え方を説明していただけますか。

教育長 はっきりこういう流れになるとは想定していませんでしたので、ただあり得るかなと思って、資料は用意しておりましたので、提示します。その前に、健田小では小学校は1校で健田に行くことについては問題はなく、幼稚園が問題だということですね。海拔のことについては、Q & Aで用意はしてありますので、それはいつでも。学校を通してPTAに渡すのか、あるいは、私どもが行って説明した方が良いのか、その辺を詰めてやっていきたいと思しますので、では、資料を配ります。

事務局 それでは「千倉地区の保育所、幼稚園及び小中学校再編（案）」の裏面のスケジュールを御覧下さい。まず、幼稚園ですが、平成26年度から千倉地区4園を統合し、園舎は朝夷幼稚園舎を使用する。預かり保育は朝夷幼稚園舎で実施する。平成25年度から朝夷小学校舎を活用した実施設計に着手する。平成26年度から幼保一体工事に着手する。平成27年度から統合幼稚園とちくら保育所を統合し、幼保一体施設を開設する。小学校ですが、平成26年度から千倉地区4校を統合し、校舎は健田小学校舎を使用する。普通教室が2部屋不足しますが、特別教室あるいは健田幼稚園舎を使用する。学童保育については健田幼稚園の遊戯室を使用するという事で考えております。そのような状況で今回、再度、ここで提案させていただきます。よろしく願いいたします。この案につきましては、現場の校長先生と相談させていただいた中で仮に、26年度当初から4校を統合し、1校でスタートするにあたり、御理解をいただければ十分対応が可能であると判断したところであります。

委員長 何か意見等ありましたらお願いします。なければ、この案、26年度に健田小学校へ4校が統合するという事。26年度に朝夷幼稚園に4園が統合して、27年度に幼保一体施設を開設するという方向でよろしいでしょうか。

委員 幼稚園の問題だけ後で。健田幼稚園の方がいろいろあるわけでしょ。それを解決してもらえばこれで良いと思えますけど。

委員 今、委員さんが言ったとおり、私の一存では決められないので。案が変わったので、これを持ってまた本部で話をします。

委員長 今、やっていることは方向性だけはきちんとして、具申しなければなりませんので、幼稚園の問題についてはこれから話をしていくということで。方向性として、検討委員会で具申する方向はこれでよろしいですかと。

委員 当初、1回で統合する時に2教室不足になると、その時に幼稚園を使ったらどうかとなった時、幼稚園は使えないということだったんですけど。ここで使えるようになったのはどういうことですか。

教育長 あの時は私どもの考えも、普通教室として幼稚園の教室を使うということ

考えていましたので、そうすると、幼稚園の教室を小学校の普通教室に使うというのは無理だという説明をしました。その後、健田小学校と相談しまして、具体的には今、想定しているのは、図工室あるいは視聴覚室、そういうような特別教室を普通教室として2教室使うということで、幼稚園の方には普通教室は行かない状況でやれるだろうということになりましたので、そこが前回と違ってきました。最初からそういう考えでやれば良かったんですけど、当初は特別教室を普通教室で使う想定はしませんでしたので、御理解いただければと思います。

委員 普通教室が結局14教室必要になるわけですが、健田小学校には普通教室は12教室しかありません。他に特別教室を使うことが可能かという質問でしたので、そういった意味では図工室、視聴覚室あるいは音楽室。この三つが結構広い部屋ですので、広さとしては使えますということでお答えしています。ただ普通教室とは違うので教室の形がちょっと正方形ではなかったりとかの部分での不便は掛けますが、広さとしては十分あります。その場合、視聴覚室と音楽室は隣り合っている部屋なものですから、視聴覚室を普通教室で使って、隣の音楽室で太鼓をドンドン叩いては授業になりません。ですから、音楽をやる部屋として幼稚園の遊戯室が広いので、音楽をやる時には幼稚園の遊戯室を使って合奏などをすると、使い回しの中で教室を有効に活用することができるのではないかということで教育委員会にはお答えしました。

委員 私の認識では暫定的に2年間だけというふうに理解しておりますが、校長先生、それでよろしいですね。

委員 14教室必要なのは2年間だけですので。

委員 理解していいですね。

委員 はい。

委員 方向性うんぬんというのがよく理解できないので、できたらこの案をいただいて、ちょっと相談をして、次回に結論だと助かるんですけど。

委員 これは私見ですが、かつての会議の中でも「保護者の意見を聞く耳がないんじゃないか。」というような話もありましたので、私の考えとしては、この案からあまりぶれないように。今、委員長が確認しました教育委員会から出た案からあまり逆戻りしないような方向で。朝夷小のPTA会長が言ったように、「こういう案が示されていますが、これで良いか。」というような形で意見を聞いていただければ良いのではないかという気がしますが。

委員 それでも良いですが、保護者との間で摩擦になってしまう。批判されるのはPTA役員の方なので。とりあえず、今までと違う案なので、他の役員とも相談して、それとは別に、健田小とすれば海拔の問題が一つあるということと、どうして幼保は健田では駄目なのかという資料を教育委員会で用意していただ

いて、保護者に配付して意見を求めるというような形にしようと思っていますので、できたら、この案についても統合の年度が変わりましたので、それを一度説明していただければなど。

委員 できれば、受け入れ側である健田小として、会長さんの手腕力量でまとめてもらうと委員としてはありがたいんですが。

委員 教育委員会と一度、個別に打ち合わせをさせてもらって、良い資料とかあったら出してもらって。その方が説明する時に説明しやすいと思いますので。方向性はこれでというのは、もう少し待っていただきたい。

委員長 お話しは分かりましたが、ここでまた戻すというのもおかしいと思うので。幼稚園が動かないというようなことになった場合は、小学校の統合はあり得ないわけです。議論してきたのは、幼稚園が朝夷へ動いていくという仮定で教育委員会の案はできているわけで、その案では駄目だとするなら、もう一度戻らなくてはならない。

委員 方向性というのは、今日決めなければいけないんですか。

教育長 当初からお話ししていますが、保育所の問題だとか、幼保一体施設にしていくとか、七浦小と忽戸小が人数が少なくなってきていて、一年も猶予できないのではないとか。あるいは、10年先、20年先を考えると、一学年40人台が見えているわけで、そういう中で小学校をどうするかとか、いろんな条件があるわけです。それらの条件を私どもで最大集約して、この案で提案したんです。これが駄目だとなった時には代案を出していただかないと、この後、話し合いにならないと思うんですね。また、その代案を他の皆さんが納得してくれるかという問題もある。あとは、委員さんが心配している健田幼稚園が朝夷幼稚園に動くということに対して懸念があるとすれば、私どもの方が再編検討委員会の事務局ということで「そういう心配はないんだ。」ということで説明することはできるわけですね。ただ、これが来年度とかそういう話になってくると、もし、来年度になって、「では、4校、この案で行こう。」となった時に、私どもの方が今度は平成26年4月1日に間に合わなくなってくることがまた考えられるわけなんですよ。

委員 今回これを決めれば、26年度から間に合うということですか。

教育長 十分間に合います。

委員 今、2か月に1回くらいのペースで検討委員会をやっていて、それを次回の検討委員会まで、2か月先まで延ばしてしまうと26年度は間に合わないということですか。

教育長 今、揃っている皆さん方が再編検討委員でいる時に結論を出して説明会等をやらないと、PTA役員の方が替わって、新たな再編検討委員ということでお願いするとなると早くても5月中旬になってしまい、再度、協議をしてとなる

ので、何か月かは明らかに会議が持てない時期が入ってきてしまうんですよ。その辺も懸念してしましてね。ですから、ここまで議論を重ねてきていますので、皆さん方が委員の時に方向性を出して、それで説明をして、御理解いただけるようなところまで段取りをつけていただければ、私どもとしては大変ありがたいと思っています。

委員 その話はわからなかったの。

教育長 それについては私どもやりますから。

委員 わかりました。この案について、どういう意見が出るか分からないですし、前回やった時に結構反対意見が出ていて、その後も反対意見が出ている中で、個人的な意見はありますけど、PTA会長としてということになると。一度、話をさせてもらえれば、次回には。1か月か2か月あれば、年末年始が入っても大丈夫だとは思いますが。

委員 この間の町P連の会議の時に委員は途中で退席されたんですけども。今年度中でしたら、3月まで決まれば良いのかなと思ったのですが。委員が言うとおりに、PTA会長が保護者の意見をまとめるというのは非常に大変で、それをここで方向性を決めるというのは非常に難しいと思います。本当は何か月もやるべきだとは思いますが、たぶん、委員もこれを1か月か2か月やって、早いうちに決めるという気持ちはあると思います。これが1か月遅れたら、そんなに皆さんに、この会議や、統合に支障があるのか。私はこの間の町P連の時に、教育長が言われた「今年度中、3月中に方向性を決めれば良い。」ということで、私は保護者に丁寧な説明ができるのかなと思っていたんです。ここで、今これを決めろというのはあまりにも強引過ぎる。少なくとも1か月は待ってあげるとか、そうした方が各小学校PTA会長も良いのではないのかなと。もう一つ、町P連の会議の時に4小学校を1校にする時、一番問題なのは校舎の問題だと。そこで、プレハブをつくらないといけない。プレハブに予算がかかる、その許可がいる。そういう話があったかと思います。この案を見ると、プレハブは必要ない。小学校でプレハブが必要ないということは、もしかしたら、プレハブに幼稚園が持ってこられるのではないかなと。だいぶ当初と案が変わっているような気がするんですけど。もう少し話をした方が良いかなと思います。

委員長 用地や施設に関して、私が聞いた話の中で、先ほども説明があったように本来教室を使ってやるなら、12しかないので入りきれない。それでも2年間だけだからということで何か方法はないかと思ってきたのが、特別教室を使うということで、それでも幼稚園の方の施設を使わなければならない場面があるということですね。そういうことの中で、その上で、そこに幼保の施設や給食室を別につくるとなると、今の用地ではとても入りきれないと。その辺の決めごと

については私も良く分かりませんので。事務局から何かありますか。

教育長 今、委員のおっしゃったのは恒久的に健田ということではないんでしょう。

委員 いきなりこれを決めろという話だったので、例えば、今までは校舎をつくらなくてはいけないというのが、今回つくらなくても大丈夫となって、場面場面で話が違っているので、少なくとも1か月か2か月の猶予を持ってあげて、小学校に行き説明をして、こんな案が出ていますけど、これで行きたいんですよ。たぶん委員は教育委員会の皆さんと一緒に説明をして、この案で行きたいんですよと、それから意見を集約して決めましょうというような考えなのかなと思いますけど。

委員 私が先ほど言った「元に戻らないように」という部分で、検討委員会のメンバーとして、そういう気持ちで保護者の皆さんに説明してもらえれば良いなということで。事務局としては教育委員会の方が、教育長が行ってくださるというお話しなので、今、議題となっているのが「学校再編の方向性」ということで、委員長から皆さん方に提案させていただいた中での一つの流れが教育委員会から提示されたものですから、この方向性で進むことについてどうですかと委員長が皆さん方に問いかけたと思うんですよ。結果として、これは持って帰らないと、ここでは返事ができないというのは、前の会議でもありましたように、「保護者の方の意見を聞く耳が教育委員会や検討委員会にはないのではないか。」というような話がありましたので、それはそういうことで諮ってもいいのではないかと。ただし、検討委員のメンバーの気持ちとしては、元の振り出しへ戻るようなことではなくて、そういう意見があっても、「こういうことで皆でやってみようということなので、何とか理解していただけないでしょうか。」と会長の立場で話しをしてもらえればありがたいなとそういう話です。

委員 はい。それはわかりました。

委員長 したがいまして、元に戻らないと。ゼロからの出発ではなくて、ここまで来ていますので、このことを事務局が行って説明しても、駄目だという段階でないとそれはゼロには戻れないということで。一応、方向性としてはこの案で動いて行くと。

委員 先ほど教育長は事務局としてということだったんですが、場合によっては委員長と副委員長と一緒に説明に行っても良いのではないかと覚悟はしています。

委員 健田小とすれば、先ほど話したとおり、教育員会から資料をもらって、個別に打ち合わせをさせてもらって、その時に私の方がこういう資料が欲しいというのがあるので、そういう話をさせてもらって、それをまとめて、この案と一緒に出して、意見を諮りたいなと思っています。この案は今までと結構変わっているんですけど、他の小学校は。

教育長 私どもがこの案を出したのは、前回の話し合いで七浦小と忽戸小は一度なら



良いというお話しをいただいて、朝夷小は朝夷小が残る形もあるけれど、他校の考えや動きもあるので、それは大きな流れに合わせていきますというようなお話しをいただいています。あとは、健田小については、小学校は健田に行くということで、これは異論がないのではないかという理解の上でこの案をつくりました。ですから、今、委員が心配されているのは幼稚園の問題なのかなということは考えていますので、その点については、また相談して理解していただくような努力はしたいと思っていますので、いずれにしても、それぞれの皆さん方の意見を集約するところという形になるだろうということは御理解いただきたいと思います。28年度という案もありましたけれど、七浦小と忽戸小が28年度まで統合しないで今のままというのは、私どもの再編の基本的な考え方からも、それは絶対に避けたいことですので、それを御理解の上で進めていただければと思います。

委員長        それでは、本日、提案された方向性については、これでよろしいでしょうか。  
委員            我々の認識の方向性というのは、今、出された案に少しいろんな意見が出てくる中で、修正はあり得るでしょうという話だと思いますけど。方向性として今までを整理すると、遅くても28年度には小学校1校、幼保一体施設が29年度という方向性ではいけないですか。というのは選択肢の中で、例えば、前回の朝夷が1校残って、忽戸と七浦が26年度に健田に行って、28年度に朝夷が行きますというのも選択の方向性からは外れるということですか。

委員長        そういうことですね。

委員            年度とか場所もこの案で行くという方向性ですか。

委員長        そうしないと、幼稚園の問題も解決できないことになります。そういうような問題があるのではないですか。

委員            最終的に28年度に1校にするという方向性を決めたとすれば、今回の案もそうですし、前回会議に出た案も同じだと思うんですけど、2回行くこともなくなっていて、それぞれの学校が1回ずつとなるわけですけど、そういったことも選択としてはなくなるんですか。方向性というと、この案も方向性といえば方向性ですし、28年度までに1校になるということの取り組みも方向性です。今、健田小のPTA会長が言いましたように、この案を初めて見たんですけど、個人的に良いとか悪いとかでなく、方向性というのがうまく馴染んでこないんですけど。次からは何も修正がないと、大きな流れはこれで変わらないんだよということなのか。

委員長        それは、私の言葉が悪かったのですが、この案で行ってもよろしいですかという質問です。

委員            今、いろいろな意見を聞かせていただいているんですけど、教育委員会の提案とPTAの方の御意見等を聞かせてもらって、この会議はベストでないけど

も、ベターな選択を決めることの会議ではないのかなという気がするんですよ。それぞれの方向性でものを言ったら、いつまでたっても決まらない。それで前回の会議の中で「1回の方が良い」というような話が出た中で、教育委員会が考えて「26年度に1回」という案を持ってきた中で、教育委員会の方は当初から複式学級はいけないということで、26年度にしましょうと言うのであれば、その辺も皆で検討して、それが良いのであれば、ある程度その方向性で行くことがベターではないのかなと。あと一点、私が心配するのは保護者の中で、健田小と同様で、幼稚園と小学校が別々になってしまうから、できれば一つの方が良いという意見が前にありましたが、その辺がどうなのかという疑問は持たれていないのか。26年度で、学校の敷地等がOKであって、それで何ら不都合がなければ、一つになるのは皆さんも方向性として良いというのであれば、ベストではないがベターな案をこの会議で話し合っ、一つに決めていく方向性の方が良いのでないかという気がするんですけど。

委員長 今の話しはここに出されたことではベターでない。

委員 個人的に言わせてもらえば。皆さんで議論した中で28年度に一つにするのであれば、自分としては26年度で一つになってできるのであれば、その方がベターなのかなと思います。あとは意見集約をどうやって持っていくかはあると思うんですけど。

委員 今、26年と28年が出てきていますけど、26年度だと何がいけないのか、28年度になると何が良いのか。そういったところを指摘して議論しないと。PTAの考え方というものがあろうかと思っていますので、そこを提示していただければと思います。

委員 皆さんは御理解しているでしょうけど、私の考えとしては、この検討委員会が付託されているのは、学校の名称と位置です。子供たちが入学する場合に入学すべき学校の指定通知というものを教育委員会から出すので、教育委員会は教育に対して責任があると私は考えています。できれば、指定通知を出す学校は教育長の話では1校にして欲しいと。複式等があるし、子供たちも減っているので、1校にして欲しいという気持ちがあるのではないかと思います。したがって、先ほど、ベスト、ベターという話がありましたが、いろんな意見を一つにするのは大変じゃないかと。その中で今出てきた案が「こういうことでさせていただきたい」という教育長、あるいは教育委員会としての偽らざる心境じゃないかなという気がするんです。今日の会議としては、この提案された方向でどこに問題点があるかということだけを議論していただいて、PTAの方へ持ち帰って検討して、また次回の会議に反映していただければ良いのではないかという気がしております。

委員 少し打ち合わせをさせてもらって、次回に反映させていただくということで

良ければ。

委員長 今、話が出ましたように、とりあえずこの案に従っていくけれども、幼稚園の統合については問題があって、その問題については次回話し合うということによろしいでしょうか。

委員 皆さんPTA役員という立場で再編委員として選んでいただいて参加していますので、我々の私見ではなく、保護者全体の意見を聞いて、それをこの会議で挙げるという立場だと認識していたのですが、特に朝夷小の場合は思いの強い方がたくさんいますので、どこまで行っても1校に統合という意見には、その意見の場ではならないということがありますが、やはり朝夷小1校だけ反対することもできないことは会長からの話で分かっていると思いますので。ただこの案で、これからぶれずに説明してくれとなると、私たちも今までとは立場が違う形の説明の仕方が必要になってくる。この案で説明してくれではなく、先ほど朝夷小PTA会長が言ったとおり、前回までの案としては28年度に最終的に1校にまとめれば良いという認識だったと思うのですが、それが駄目なんだと言われてしまいますと、朝夷小としては説明の仕方、話の持っていき方としては難しいと思うんです。うまく言えませんが、「そういった形で良いですか。」とまとめるのは、無理があるなという感じです。

委員長 今まで出てきた中で、いろんなものを総合して「ゼロに戻したくない。」と言うのは、今まで出てきたものがゼロになってしまって、またもう一度やったら、一年後変わってしまうという意味合いで言ったんですけれども。それは、皆が「一気に一つにしてくれ。」という声はかなりある中で、この代案が出てきたのだと思うんですね。今の朝夷小の意見も踏まえて、この案がつけられて、それで問題があるならば、それを答弁しなければならぬと思いますけれど。私としては決定とはしなくても、ここまで来たのだからこれを先に進めて、どうしていくかということを考えていったら良いのではないかという意味で、とりあえず今日は、ここに出されたこの案で行ったら、どうでしょうかという意味合いのことを聞いたつもりなんですけど。

教育長 先ほど、委員から「28年度にする意味はなんですか。」とありましたが、26年度だと、4校がおおむねまとまるだろうと。28年度にあえて、それをすることの意味を委員は求めたわけなんですけど、そういうやりとりをする中で、朝夷小では28年度ということも主張したんだけど、この会議全体としては26年度の方角で行くことになったということの説明をすれば、私はよろしいのではないかと。その方向性ができたら、それについては再編検討委員会で、委員長さん、副委員長さんも出ていただけるということなんですけど、私どもが事務局として、朝夷小なら朝夷小の説明会へ行って、「こういう案になりました。」という説明はします。

委員長 今の段階では、ここまでということになってしまいますが、一応、健田小P  
T Aの幼稚園開園についての問題を保留しながら、このスケジュールで行く  
ということよろしいですか。

委員 はい。

委員長 それでは、26年度に4校で統合するという案で行きたいと思います。続き  
まして、議題2号の「第6回会議開催日程について」事務局からお願いします。

事務局 次回の会議開催日程でございますが、できましたら今月というのは難しいと  
思いますが、1月の早い日にちにやりたいと思いますが、P T Aの皆さんはい  
かがでしょうか。

委員 1月に七浦小は山形との交歓会があるので、1月から2月の初めまで外して  
もらいたいんですが。

事務局 それでは日程については執行部と学校関係者等で日程調整させていただき、  
皆さんに早急に通知を差し上げたいと思いますので、よろしくお願いいたしま  
す。

委員長 それでは本日の議事を終了します。議事は終了しましたので、傍聴人は退席  
をお願いいたします。

(傍聴人退席)

事務局 以上をもちまして第5回千倉地区学校再編検討委員会を閉会いたします。あ  
りがとうございました。

(閉会)